



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2016年8月1日

8月号・第175号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



稲の観察会

Contents



ホームページでは、カラーで見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	やさしい病害虫講座	12
多土済々	2	青垣春秋	13
Monthly Repo.ならやま	3	俳句百景	14
里山の今	4・5・6	癒しの散歩道 & ならやま茶論	15
「鳥」シリーズ & 字遊字感	7	ギャラリーならやま	16
「山の日・川の日」イベント・報告	8	ならやまプロジェクト	17
7月・月例研修会・報告	9	行事案内	18
佐保台小学校・自然観察会・報告	10	幹事会報告・行事予告・編集後記	19
春の感謝祭・報告	11		

壮春力歩

会長 鈴木 末一

大役を仰せつかり約二カ月が経過しました。この間、日ごとにのしかかるプレッシャーとの葛藤が続いています。と言いますのも、会創立15周年、ならやまプロジェクト10周年という記念すべき節目の年を迎えていることも大きな要因でもあります。たかが10年、15年と言えども、単に数字で表されているだけのものではない重みが、詰まっているからです。お出逢いする各界の皆さんに会のことをお話しすると、「よくぞそんなに長年月…。ボランティア活動で、そんなに長く続けているのは余り例がないように思いますね。しかも年々会員が増え、150人にもなって、その約半数の方が毎週景観整備活動に汗を流しておられるなんて」と異口同音に驚きが返ってきます。

充実発展の道筋を辿り、今日の高まりの背景なりを考えてみますと、

- ① 生活のゆとりと社会への貢献
- ② 社会の変化と市民の自立
- ③ 既存の社会システムの限界
- ④ 都市化によるコミュニティの希薄化
- ⑤ 社会的認識と評価

などがあるのではないのでしょうか。

ボランティア活動の根底には、「自主性」「自発性」「社会性」「連帯性」「無償性」「創造性」「開拓性」「先駆性」という8つの「精神」があると思います。

この精神に基づけば、ボランティア活動で大切なこと、また、心掛けなければならない具体的なこととして、

- ① 地域課題の実践的な担い手
- ② 人間的なふれ合いと自己実現
- ③ 肩書きのない自由な関係
- ④ 社会的課題の発見

などがあると考えています。キャッチフレーズ風にすれば、「率先垂範」「自覚的連帯」「献身的協業」「社会貢献」と端的に表現できるのではないでし

ょうか。

先般、キャッチフレーズとロゴマークを募集いたしました。キャッチフレーズの部は23作品、ロゴマークの部は3作品の応募がありました。それらの作品について100名近くの会員の皆様方にご投票いただき、その結果を尊重しつつ企画会議と幹事会でご協議をいただきました。

その結果、

- ① 15周年キャッチフレーズとして

『15年 活かして拓く 夢・未来』

- ② ならやま10周年キャッチフレーズとして

『仲間と創る未来のならやま』

に決まりました。

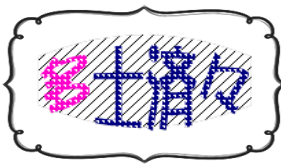
ロゴマークと合せたデザインです。



記念事業につきましては、「15周年記念誌編集委員会」(委員15名)、「15周年記念事業委員会」(委員17名)を構成し、ご協議をさせていただきます。

15周年で過去を振り返るばかりでは、進歩は望めません。従前以上に「お一人お一人が主役」です。15周年という節目に立ち、会員お一人お一人がこの先、どんな未来を目指すのか、どんな会を作るのかが、過去を振り返るのと同じくらい大切です。この先どんな未来を、どんな活動を、どんな会づくりを目指すのか、ぜひお聞かせください。短くて結構です。

記念誌へのご寄稿につきましてお済みでない方がおられましたら、早々にご協力をお願いします。



藤田 秀憲 さん

いつも柔和な

顧問 阿部 和生

去る5月21日「2016年度 第15回通常総会」が、奈良市ボランティアインフォメーションセンターで開催され、つつがなく終了しました。鈴木新体制の発足です。



2期4年の会長職から解放され、なんともいえない優しい素顔に戻ら

れたのを思い出します。会長という立場でこのボランティアの一团を取りまとめ進むことのご尽力を終えられ、そして「次期会長に適任者を選ぶこと」が実現しました。新会長が就任され、新執行部が発足し、バトンタッチが完了した安堵感がにじみ出たことなのでしょう。

2012年からの休む間のない緊張からの解放、本当にお疲れ様でした。深く感謝いたします。

印象的な出来事として奈良県当局の推薦による「東京海上日動火災(株)」の“G&G”助成を受けた事でした。全国で16府県34件奈良県下では唯一の事業場所として当会选择され、会員の皆様のご協力、工夫と相まって自然環境教育の普及・環境保全活動の促進事業が展開されました。



これを機会にこれまでの催事内容の見直し・進化を行い、あるいは公開イベントへの環境整備を

行うなど、会の実力の向上と施設の充実を実現させました。その内容は主催者G&Gプロジェクトの目指す視点に合致、きわめて高い評価を得る事となり、予期せぬ2年目の取り組み要請がありました。さらに3年目事業の継続依頼を受けるという素晴らしい結果をもたらしたことです。

2013年12月 事業内容打ち合わせに臨むに当たり「きっちり私たちができること・やりたいことを伝え、さらに希望をも話しました。その了解の上に立ち契約を結びたい」と毅然とした姿勢で、出向かれたことを思い出します。同一団体で3年連続は少ないそうで事業体「東京海上日動」に感謝された、誇れる活動であったといえるでしょう。

一方、当会としても、イベント内容の進化がありさらにさまざまな装備の充実がはかれ、幸運を呼び寄せた活動でした。

実質会員が150名を超え、ならやま里山景観整備事業プロジェクトには、およそ毎回60数名の参加があるという現実が^{しゅったい}出来ています。活動日の参加は自由参加であって強制や義務はないのですが、時には70名を超えます。イベント参加者も含めると28年度は年間4000人ほどにもなりそうな勢いです。地域の方々のご参加という事とともに、ほかに何か識らない“ふんわか”とした魅力が生まれる、いい雰囲気づくりがなされてきた結果なのでしょう。

多忙な会長職の中であつても、奈良古代歴史への関心は深く、いつの間にか研究しておられ、その造詣の深さに驚きます。お話を聞くと、昔からのマニアではないそうで、びっくりです。多くの資料を漁り、現地を訪ね、読みにくい古代の文字をひもとく、その根気はどこから生じるのでしょうか？

会長職から解放されゆとりの時間が生まれそうですね。のんびりと会の様々な分野を楽しんでください。これまでとちがって、パソコンでのメールにも気楽につきあってください。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

6月24日(金) 振替活動 曇後雨 39名

相変わらずの雨模様の中での活動。12時前には雨が降り出し、昼食前に解散。このため各Gとも、山に入って植樹の周りや自然の森、そして観察路の草刈りと、時間と草に追いかける作業が続く。その他エコGは夏野菜の収穫、花班も花の移植と、雨と競争しながらの作業が続く。打ち合わせでは常備薬活用の件やボランティア保険の詳細について説明を行う。最近漆にかぶれたり、蜂に刺されたり、といった案件が続いている。事故や怪我がないようにと祈る。

7月1日(金) 振替活動 晴れ 50名+6名

梅雨の間の晴れたむし暑い日になったが、今日から夏時間。昼には感謝祭として採れたてのジャガイモのカレーを堪能した。午後からは三々五々解散。しかしイベントの準備で遅くなるGもあった。打ち合わせでは7月イベントの参加者要請や、常備してある薬類の適正な使用方法についての説明等があった。事故や怪我は無いにこしたことはないが、緊急の際には適切に使用したいものだ。各Gは、イベントの準備や本日の感謝祭の準備、そして夏本番を迎えるならやまの環境整備等に汗を流す。また、国交省関係の面談のために、県庁関係者等が5名、加えて活動を見学したいと1名、計6名の来訪者があった。



7月7日(木) 活動 晴れ 61名+2名

蒸し暑い気候の中での協働作業になったが、田んぼの草取りを全員で取り組む。しかし、しつこい草のために半日作業になった。グループでは、

イベントの準備のほか、畑・サイト、そして池や里山等の整備がこの時期の作業の主な中身になり、いよいよ忙しい時期を迎える。そのためにイベントの打ち合わせやミーティングがそこそこで度々持たれるようになった。また、昼食時には冷汁の他、ならやま特産のジャガイモのコロッケや差し入れのパンが供される。来訪者2名。



7月14日(木) 活動 晴れ 61名+2名

佐保台小5年生、自分たちが一ヶ月前に植えた稲の観察に来訪。もう一カ月が経ち、ずいぶんと稲も大きくなった。さぞかし子供たちも驚いたことだろう。打ち合わせでは、具体的な梅の剪定の方法や、イベントに向けての説明会の日程の件、その他7、8月の月例研修会への勧誘等が連絡された。里山Gはイベント準備や枯れ木の処理、エコGは夏野菜の収穫、そして景観GはBC付近の草刈りを中心に作業を行う。その他ビオ班は水生生物調査、花班は花の種まきや草むしり、そしてパト班は第3コース巡回と目いっぱい活動になった。それでも半日作業で予定が完了せず、午後からも活動が続けたGもあった。シニア実習生2名来訪。



里山グループだより

杉山耕二



里山の今

エコファームだより

萱野 勉

この会に入って足かけ8年、お礼

奉公というか責務というか2年間の幹事・里山リーダーを何とか終えようとしている頃、ホッとした気分で「ツツジの道」を通りかかった。見事に咲いた一面の躑躅を見てベースキャンプの林縁部に咲かすことが出来ないものかと思いついた。

ならやまでは餅躑躅が圧倒的に多く小葉の三葉躑躅が少ないので、そちらにしようと思った。増殖法には実生と挿し木があるが、小葉の三葉躑躅は種を採取して実生で育てるのが一般的なようだ。要するに挿し木は難しいとのこと。然し、挿し木にはチャンスが二度あり、まず4月初旬に前年の枝先を挿す方法、次に6月の梅雨時期に今年の新芽の枝先を挿す方法である。

難しいと言われていることも含めて、全てにチャレンジしようということで、お勧めのとおり4月に前年の枝先を、また6月に今年の新芽の枝先をそれぞれ20本くらい挿した。7月上旬の日照りに曝したため、何本か葉が枯れたのが失敗で反省している。この原稿締め切り時点で何とか生き残り、新芽が出掛っているのが各3～4本ある。しかし夏場を乗り越えて活着するのが何本あるのか、状況は厳しそうである。

それにしても「躑躅」という字は、同じツツジ属でも「皋月」「石楠花」などに比べ何と禍々しいことか、可憐な薄紫色の花のイメージには全くそぐわないと思う。しかし調べてみるといろいろイワクはあるようでその一つとして、あまりにも花が美しくて躑躅（てきちょくと読む）する。その意は、行ったり来たりするというのがある。

ベースキャンプの林縁に「躑躅」を咲かせて、花を愛でながら躑躅（てきちょく）してみたいものである。



＊協働作業の日・

水田の除草（コナギ）

今年もまた恒例となった『コナギの除草』、掛け声で各部署から30人程、この暑い中参加して頂きありがとうございました。

梅雨の中休みだったのか7月7日七夕の日、偶然にも天気にも恵まれコナギの除草作業開始。今年もズボンの裾をめくり裸足で泥の中へ、泥の感触を楽しみながらも成長したコナギ相手に悪戦苦闘。



また、水田の周りの畦も刈払機で綺麗に。休憩中にキュウリの一夜漬け。

「ちょっと塩辛いかなあ～」「汗を掻いたから丁度いいかなあ～」などの声が飛び交う中、会長からのアイスの差し入れ。

「塩辛いのと甘いのとで調和がとれたなあ」と笑いがあり休憩後もコナギとの格闘が続き、来年はコナギの除草方法にいい案があればと思いながら無事に終了。

今年も暑い中本当にご協力頂きありがとうございました。



景観グループだより

西谷 範子

*「馬の鈴草と麝香揚羽」

毎年4月になるとジャコウアゲハの雄（なぜか♂が先）が、ならやまにご機嫌を伺いに来る。さあ雌が卵を産みに来るぞと、顔を出し始めたウマノスズクサに急いで杖を立てる。冬の間寒肥をどっさりやってあるので、宿根草のウマノスズクサはあちこちと場所を選ばず芽を出す。

蝶の為には大きく育てなければならないが、蔓性（左巻き）なので掘りどころが必要である。

Sさんが今年も高さ、見栄えともちょうどいい柵作りをしてくれた。ぐんぐん伸びるのでSさんのアイデアでこの柵に、葉を取った笹竹を何本も差し込んだ。グッドアイデアでウマノスズクサは笹の小枝に縦横に巻き付き始めた。準備OK！

ところが、ジャコウアゲハがさっぱり来ないのである。葉裏にいつもついていて、あの小さな丸い卵も見えない。仲間も「卵産んだか？」と見回りに参加してくれるのだが、気配がない。

ジャコウアゲハは4月から9月の間に何回か卵を産み付け、いささか変わった形の幼虫になる。するとものすごい食欲でウマノスズクサを食べ、葉がなくなると茎もぼろぼろとかじる。

少しずつ産んでいる間はよいのだが、半年間に2度ほど大量に幼虫が孵る時期がある。食草が足りない、餓死するのではとひやひやして見守る。

ところがある朝、ウマノスズクサが全部根元から食いちぎられているのを発見する。まだ葉をつけたまま萎れている。なんだ？なんだ？

調べてみると、これはジャコウアゲハの恐るべき生存競争の表れなのだ。先に大きくなった幼虫は自分が蛹になる前に、後から成長する幼虫の食料を断つのである。これが自然の生産調整なのだ。

今年もこの大量産み付けの1回目の時期にきている。なのにどこにも卵のかけらもない。昆虫博士のKさんとも顔を見合わせて、今年はならやまのジャコウアゲハは絶滅したと確認した。



里山の今

この半年間に何回か蛹が羽化するのだが、9月以降に蛹になったものはその姿のまま越冬する。

そして4月になると羽化するのである。その蛹の越冬場所たるや場所を選ばない。竹の柵は言うに及ばず、周辺の草や木に糸をひっかけて冬眠する。セメントの壁だろうが、プラスチックだろうが手当たり次第で、相当遠くまで歩いていくものもある。

そのため、柿の木の下や山野草園の草刈りは9月までに行い、それ以後伸びても刈らないようにしている。蛹を取り殺してしまう恐れがあるからだ。

そして思い当たったのが、あのナイロン畳起こしである。畳の上に生えていた低木や草もろともはぎ取ってしまった。いわんや蛹も・・・

近年、世の中に食草のウマノスズクサが少なくなっているのに、ジャコウアゲハの数はとみに減っている。Kさんのお世話でならやまにジャコウアゲハが住み着いて数年になる。

あちら立てればこちらが立たず、である。蝶には申し訳ない。せめてあの場所に花の咲く木や草花を沢山植えて、蝶に詫げるつもりである。

そして今年のウマノスズクサは食べられることもなく、のびのびと我が世の春を謳歌している。来年はどこから養子を迎えて、またならやまにジャコウアゲハがふわふわ飛んでいるようにしたいと、Kさんは言ってくださっている。



パトロール班だより

有元康人

梅雨もようやく明けました。

ならやまの里山林では、落ち葉による保水によるものなのか、観察路の崩壊や丸太階段が大きく傷んでいるとの報告は出ていませんが、梅雨の終盤は、ゲリラ豪雨等も予想されるので観察路の景観や、整備状況の確認を行うこと、危険箇所を発見すると、リーダーの小島さんにタイムリーに報告し、情報を共有するとともに、迅速な処置が取れるようにすることを、パトロール班内で確認をしました。

倒木や、笹、ウルシなど植物が大きく成長する時期で、早めの除去が必要になってきます。

今回、新しくパトロール班の方針が、小島リーダーから打ち出されました。

方針は、「ならやま自然観察路を、ならやま自然学習の場として、気持ちよく安全に里山を散策できるように、環境作りと保全を行う」。

「パトロール班としての役割を再確認して行動する」というものです。

これからのパトロール班は、この内容を基に行動していくことになりました。

上記の行動を行うことで、今まで以上に自然観察路の情報を発信し、皆さんに興味を持って散策していただけるようにします。

(パトロール記録書、裏は地図)



里山の今



ならやま花だより

桜木晴代

「まぼろしの花」だより

——知る人ぞ知る スモモの木——

6月30日の昼食後、ある所を歩いていると、つぶれた赤い実が落ちていました。誰かが持参したデザートの食べ残しかと思ったのですが、一つならず二つ三つ、まだまだありました。殆ど皮だけでしたが、中にはつついたような跡のある実も。カラスの仕業か？さらに見渡すと、おいしそうな無傷に見える実もありました。帰り支度を急ぐ中、熟して半分崩れた実と、つついた跡なのか数本の割れ目の入った実と、無傷に近い実を手元のハンカチにそっと包み、家に持ち帰りました。

翌日、恐る恐る食べてみました。熟した実はとても美味。他の二つは、実はきれいでしたが、かなり酸っぱいものでした。

スモモ (酸桃)



*バラ科サクラ属

*白い散形状の花

*花は4月

*中国から渡来

*中国名は李



そういえば、春にこのあたりに白い花が散っていたのを思い出しました。そしてその花の正体を知っている人がいたことも。西谷さんです。「スモモの花だけど、木が高すぎて見るのができないのよ」とも。実は毎年なっているようですが、知る人ぞ知る木なのかも知れません。まだ知らない人は是非探してみてください。



残念ながら春に花を撮影しなかったため(高すぎて私のカメラでは撮影不可能だったかもしれませんが)見ていただくことができません。来春、花の撮影に挑戦してみるつもりです。

鳥シリーズ 8月号 小田久美子

「鳥・自然・人々の叫びと願い」

暑い夏の終戦の日と 8/6・8/9 が来ます。

2009 年、「アメリカは世界で唯一核兵器を使用した核保有国として、行動を起こす責任がある。核兵器のない世界の実現に向けて牽引する」と明言したオバマ米大統領のプラハでの演説は、世界で注目を集め、ノーベル平和賞受賞の要因となりました。その後、キャロライン・ケネディ駐日大使、エドワード米上院議員、ケリー米務長官などの訪問を経て、紆余曲折の難題がある中、5/17 現職の「44 代オバマ大統領の広島訪問」は敗戦から 71 年目でした。いつもの年以上に核のことを考える一日になりました。

他方、福島では新たな被爆の問題を抱えてしまいました。私たちはエネルギー問題や原子力のことを真剣に議論し、後世に悔いのない日本を引き継がないといけません。

野鳥の会では、2011 年の東電福島原発事故で漏出した放射性物質の野鳥への影響を調べ、2015 年 4 月、ツバメの死体から約 425 ベクレルと

いう高い放射性セシウムを検出したことを報告しています。このツバメは春先に渡来して

から約 1 か月の間に、エサなどから放射性セシウムを取り込んだと考えられます。

福島市内の森林で、コケなどを材料とするカラ類・オオルリ・サンコウチョウなどの巣・卵から多くの放射性セシウムが検出され、親鳥の体内から卵への移行が明らかになりました。放射線量は警戒区域から離れることで大幅に減少するので、通常の生活では人体への影響はないとされていますが、除染廃棄物の行き場はまだ決まらずそのまま山積みされています。

この袋の耐久性が心配です。



大事か小事か

川井秀夫

いろいろな活動に係わっていると、案内文・紀行文・感想文・名簿など資料作成に大童となり、パソコンに費やす時間が多くなる。IT 社会の恩恵を受けて利便になり、往時のことを思うと科学技術の進歩に低頭せざるを得ない。

しかし、高齢になると、ハンドワークが狂いミスを誘発する。先日も長時間かけて完成した原稿が「保存」のキーを誤り一瞬にパー。私にとって大事出来である。昔、聞いた話に、ある国文学者が辞書^{しゅつたい}の原稿 4 万字を手書きで上梓したが、出版社の社員のミスで無くしてしまう。先生、出版社を咎めることなく、一からやり直し、今度は 13 万字を完成させる。

こんな話を思い出すと、私の事など正に小事、小事。再びキーを叩き直す。

私は今でもアナログ人間を自認してデジタル社会に背を向ける方だが、巷に溢れる新型機器、それに狂奔する若者を見るにつけ人間社会は何処へ行くのか、進化か退化か、と年寄りの冷や水と揶揄されているうちは良いのだが・・・。

かつて、仲間と地球環境問題を語り合った時期があり、社会の未来図のなかで何れロボットのペットを連れて歩く姿を提起したことを思い出す。

今、感情をもったロボットが実用される日が近いと言う。また、車の自動運転が実用化すると。囲碁・将棋のプロ棋士を負かすソフトが高度化するなどなど。もう一般の人間の脳(心)は委縮するばかり、人間滅亡を予見したくなるのは私の誇大妄想だろうか。

これ等の技術は、災害現場、人命救助、事件捜査、遺跡探索、天災予知などに大いに活用願いたい、為政者は間違っても軍事機器のボタンを押し間違えることのないよう、これが一番の重大事。私などのボタン押しの誤りは小事中の小事で、身から出たサビと言うもの。

「好きこそ物の上手なれ」もう少しデジタルに馴化しよう努力してみようかと思う。



奈良県山の日・川の日

「山もり・てんこ森」イベント報告

会報誌8月号の行事案内でもご紹介しましたが、奈良県では7月の第3月曜日（海の日）を「奈良県山の日・川の日」と定め、県立野外活動センターに於いて奈良県農林部森林整備課が主体となりポスト「全国豊かな海づくり大会」イベント実行委員会主催による「山もり・てんこ森～山・川・海の恵みを未来へ～」のイベントを実施いたしました。



【会場全体図】

当会ではこのイベントの趣旨に賛同し、今年も男性9名、女性3名の12名のスタッフが参加、来場者にならやまで取れた竹を材料に自然工作の竹製カスタネットとブンブンゴマ作りを楽しんでいただき作品を持ち帰っていただきました。

お客様第1号はご両親に付き添われた仲の良いお兄ちゃんと妹さんの4人家族の親子連れ。10時の開場を待ち切れず、少々フライング気味の来場となりました。【お客様第1号の親子連れ】



それを皮切りに、その後は来場者が途切れることなく次々に訪れました。

当日は近畿地方にも梅雨明け宣言が出され、朝から真夏の日差しが照り付けましたが、私たちの展示場所は前回同様風通しの良い屋根付きの第3サイト。そのせいもあり、出だしから快調なスタートとなりました。

入場者の数を把握すべく、はじめは几帳面に記録を付けていましたが、それも30分とは続かず途中ボーイスカウトの団体が10名以上一度に会場からはお手上げの状態。持ち込んだセット数から残りの数を引き概算で把握することに全員で工作指導に専念しました。【ボーイスカウトの団体さん】



準備してきた材料の数はブンブンゴマが224個、カスタネットが194個、それに対し残りはそれぞれ3個と13個となり、221個と181個がはけたことになり、予想の150個をそれぞれ大きく上回りました。



【かわいい昆虫の絵】 【口の中には歯が描かれ】

皆さんの出来栄は、というと絵心満点の作品あり、カスタネットを人の顔に見立てて、内側に歯まで描いたものまで出現、中には子供以上に夢中になるお母さんも結構いらっしゃいました。



【可愛い団体さん】 【お疲れ様でした】

そんな中、カスタネット、ブンブンゴマ作りに没頭する子供達の笑顔や真剣なまなざしは、私たちの心を慰めてくれました。誰からともなく、子供たちが可愛かったね、来年もまた参加したいねとの声が出て、充実した気分になりました。

朝10時前から午後3時まで、5時間以上を休みなく来場者の世話に当たってくれた皆さま本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

(辻本 信一)

7月月例研修会

鞍馬寺から貴船神社へ歩く

—鞍馬山の緑陰と貴船川の清涼ハイキング—

梅雨明け翌日の7月19日(火)、叡電出町柳駅に集合。22名もの方が参加して下さる。お天気も上々の青空、鞍馬駅へ出発。車中から見る緑のモミジ葉が涼やかで美しい。鞍馬駅では、真っ赤な顔の(大歓迎?)天狗が迎えてくれる。地図、資料を配り、川井さんから牛若丸(義経)の父母、異母兄弟の話、小田さんからは天狗の元は鳥のトンビとの話があった。こまめな水分補給を心掛けながら駅から徒歩で5分程の鞍馬寺・仁王門に。



【仁王門での集合写真】

門前には狛犬ならぬ寅が。創建者の鑑禎が、鬼女から毘沙門天に助けられたのが寅の月、寅の日、寅の刻だったからとか。見上げるほどの立派な門には湛慶作の仁王尊像が祀られ俗界から浄域への結界となっている。

10月の火祭で有名な由岐神社も近く、そびえる杉の大木に皆から感嘆の声が上がる。

傾斜のある九十九折りの道、「あーしんど!」と、階段を上がると本殿金堂。ここも狛寅、その横に菩提樹が植えられており、小田さんから説明を聴く。金堂前のパワースポットで天を仰ぎ、天空からエネルギーを充電中の人もある。辛い階段も、時折ひんやりとした空気が流れ汗をかいた身には心地よい。霊宝殿で1時間ほど時間をとり、昼食タイムと自然博物苑や国宝の仏像の展示、義経関連の催しの見学時間にあてる。

午後からもまだまだ続く登り階段、皆さん汗だ

く膝は大丈夫でしょうか。道中「牛若丸息つぎの水」とあり、牛若丸よ貴方でもそうなの、なんて思う。やがて「木の根道」に入る。古代、隆起した鞍馬山の地下には大きな岩盤があり、木の根が下に伸びず地表に表れている。根を踏まないよう、つまづかないよう気を引き締め歩く。

牛若丸が鞍馬天狗と出会い跳躍を鍛錬したという僧正ガ谷不動堂、ゴロゴロした岩の上に奥の院魔王殿が建つ。鞍馬寺西門への道で「鞍馬山の林は極相林」との説明板があり興味深い。裸地に草が生える、陽樹が入り込む、陰樹が入り陽樹を追い出し陰樹の林となる。これには2~300年の歳月がかかる。このシイ、カシ類、カゴノキ、杉が夏の日差しに覆いをかけてくれる。少々疲れが出てきて、各自のペースや興味によりグループが前後に長く伸びてくる。

貴船川沿いの川床料理屋を眺めながらも、清涼なる川音が耳に入る。貴船神社奥宮は、玉依姫命が黄色い船に乗って着き水神を祭ったとの伝えどおり小石で覆われ苔むした舟形石が横にある。



【貴船神社奥宮】

入り口近くには杉と楓が仲睦まじい「連理の杉」。中宮(結社)は縁結びの神様。たくさんの結び文が、所狭しと結ばれている。本宮への石段の両脇に並ぶ朱の灯籠が目を惹く。幾本もの七夕飾り、若い人たちが水に浮かぶ占紙を覗きこんでいる。

御神木のカツラの葉をもむとカラメルの香りがして疲れが解けていくような・・・。

最終地の貴船口駅へ。途中キツネノカミソリを見かける。出町柳で解散する。沢山の階段と山道の下り、お疲れになったことでしょう。少しでも楽しんで頂けたなら、怪我もなく無事に終えることができ感謝しています。(山中笙子)

自然教室だよ

佐保台小学校 校庭の自然観察会実施報告

6月22日(水)午後2時半より午後4時まで佐保台小学校にて、恒例となった「校庭の自然観察会」と「自然工作」を実施しました。今年は去年の実績(51名)を大きく上回る72名の参加となり、当方スタッフもそれに合わせ急遽大募集、17名の陣容で臨みました。当日は、いつ雨が降り出してもおかしくない不安定な天気。子供達も傘を携えての参加となりました。



【さあ出発、皆でエイエイオー！】

しかし、全員の熱い思いが通じ雨雲もどこへやら、観察会終了まで傘の世話にならずに済みました。

今年の観察ポイントの数は全部で5つ。去年も観察したマツとドングリは切り口を変え、マツについてはマツの葉の不思議、ドングリについては色々なグループ分けが出来る事の説明。



【マツの葉の不思議】

準備した実物見本や写真を見せると、興味津々「へ～」と言う声があちこちから聞こえました。

3つ目のポイントは、「草いくつ?」。普段は雑草として見過ごされてしまう野草に目を向け、仲良く逞しく生きる姿を学んでもらいました。



【草いくつ?】

4つ目のポイントでは植物に加えメダカを取り入れました。私たちシニア世代にとっては子供の頃の思い出となる懐かしい遊び相手。説明にも自ずと力が入ります。



【メダカの不思議】

5つ目のポイントは手鏡を使って鳥や昆虫の目線を体感するミラーウォーク「不思議な散歩」。

どの子も「キャッ、キャッ」と騒いで文字通り不思議な気分で校庭での「不思議な散歩」を楽しんでくれました。



【不思議な散歩】

自然観察を終えると次は室内に場所を変え、自然物を材料にした工作の時間。ここではならやまで育てたジュズダマが威力を発揮してくれました。みんな思い思いの材料でブレスレット作りに励んでくれました。

大分手こずった子もいましたが、チームワーク良く年長の子が手伝ってくれていたのが印象に残ります。



【ジュズダマで自然工作】

そして最後は全員で「めだかの学校」と「ドングリコロコロ」を大合唱。「ドングリコロコロ」の歌詞はドングリが泣いてドジョウを困らせる2番で終わりですが、自然教室チームメンバーの山本(美)さんが、やさしいコリスやハトさんが出てきてドングリを無事山に戻す3番、4番の歌詞を紹介してくれました。子供達もそれを聞いて納得。大満足の大合唱で楽しい自然観察会の幕を閉じました。ご協力頂いたスタッフの皆様、お疲れ様。本当にありがとうございました。(辻本信一)

春の感謝祭 報告

6月23日に予定されていた恒例の「春の感謝祭」は、雨のため2度順延となり7月1日になりました。

梅雨の晴れ間の真夏の暑さと、臨時活動日の金曜日に当たったため、会員参加者48名でした。ビジターとして、スペースビジョン研究所（調査機関）3名、奈良県庁2名、詩人・作家の寮美千子さんで、参加者の総数は54名となりました。



紫陽花の咲くベースキャンプでは、女性メンバーがカレーライスの準備に取り掛かりました。



じゃがいも、玉ねぎ、茄子、ピーマン、ズッキーニ、大蒜を入れました。エコファームグル

ープが、苗作りから丹精込めて育てたならやま産の有機野菜です。加えて肉、人参、カレールウです。また、

西出さんから提供していただいた御所市の清流で生産された白米（ヒノヒカリ）と、ならやま産の黒米を炊いてご飯



が出来上がりました。今年は、会設立15周年、ならやま景観整備10年の記念すべき年にふさわしい、野菜たっぷりの「ならやま特製カレーライス」が出来上がりました。また、野菜サラダは、ならやま産のサニーレタス、胡瓜、赤玉ねぎです。それに、女性メンバーから漬物の提供がありました。午前中の作業を終えて、各グループの会員がベースキャンプに戻ってきました。



11時30分より、春の感謝祭がスタートしました。2つの大鍋に入れられたカレーライスを、女性メンバーか

らお皿に、たっぷり入れていただきました。各自、野菜サラダ、漬物を取り食べ始めました。会員、ビジターの皆さんの満足そうな顔、顔、顔でした。暑さのため疲れた身体も、冷たいお茶、食後のならやま産南高梅の梅ジュースで喉を潤し、元気を取り戻すことができました。（当日の奈良市最高気温32.2℃）。午後の作業



は、7月に入ったため各グループは自由参加になりました。スペースビジョン研究所と奈良県庁の

5名の皆さんは、パトロール班に同行していただき、ならやま里山景観の自然観察をしていただきました。

ならやまの自然の恵みと、カレーライス作りの女性メンバー、エコファームグループの皆さんに感謝の日でした。今年の春の感謝祭は、楽しく無事に開催することができました。

来年は、今年のように春の感謝祭の開催日の順延がなく、多くの会員が参加されることをねがっています。（青木 芳一）

やさしい病害虫講座 25

「堅い葉もなんのその、 つばき・サザンカの害虫」

木村 裕

【もち病】

名前の通り、葉っぱがお餅のように膨れる病気です。花が終わって4月になると、新しい枝が伸びだし新葉もつぎつぎに開いてきますが、その一部の枝先の新葉が耳たぶのように厚く大きくなります。黄緑色ですが、ときには赤く色づくこともあります。放置すると灰色になり最後には枯れてしまいます。

発生は一部の枝の先に現れる程度で実害はないと思いますが、あまり気持ちのよい物でもありませんので、気づいたら鋏で切り取りましょう。



【チャドクガ】

もっとも厄介な害虫で、葉を齧られる被害もさることながら幼虫の毒毛による被害が甚大です。

成虫は黄色または暗褐色の蛾で、大きさはモンシロチョウの半分くらいの大きさです。幼虫は黄褐色の地に黒紋を散らせた美人の毛虫で、主として葉の裏側に一行儀よくならんで裏面をなめるように齧ります。そのため被害を受けた部分は黄色の斑紋になります。この症状が発生確認のポイントにもなります。

毛虫の毛には毒があり、皮膚につくと赤く腫れあがり非常にかゆく、七転八倒の苦しみを味わうことになります。毛虫に直接触れるのはもちろんのこと、葉裏に残された脱皮殻、成虫の蛾（成虫になったときに幼虫時代の毛を体につけている）

に触れてもかぶれます。また、葉に残された脱皮殻に付着した毛は風で飛び散りますので、風下においても危険です。葉が食われてぼろぼろになっているようなサザンカの垣根には近づかないこと。

毛虫の発生は5月の連休～6月と、8月中頃～9月の2回あります。春に発生した樹では夏にも発生する確率が高いので注意しましょう。

薬剤を散布しても死骸が葉にぶら下がって残りますので、最もよい防除法は注意深く被害葉のある枝を虫ごと切り取ることです。



【チャノキイロアザミウマ】

夏に先端の葉に黒褐色の汚れや傷が発生するのは、この虫によって汁を吸われたせいです。非常に小さな虫ですので見つけることは不可能でしょう。成虫も幼虫も柔らかい新芽が大好きで、歯で葉の表面を傷つけ、しみ出る汁を吸いますのでその傷跡が褐色になって残ります。



【コミカンアブラムシ】

新芽や新葉に群がっている黒い虫です。いつも親子ともども一緒になって汁を吸っていますが、実被害は小さいので無視しましょう。



矢田寺と地蔵菩薩

歴史文化クラブ 坂東久平

矢田寺の本尊

釈迦（釈迦牟尼仏）が入滅して、約2千年になる。弥勒菩薩が、56億7千万年後にこの世に現われ、人々を救済すると約束されたが、この間は、現世に仏が不在となってしまう。

地蔵菩薩は、仏不在の現世に在って、六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道）を輪廻する衆生を救う仏様である。

歴史研修会で参拝した矢田寺のご本尊は、元来十一面観音であったが、弘仁年間（810-823年）に地蔵菩薩に替わる。この間の事情を矢田寺寺伝や今昔物語、矢田地蔵縁起などを調べて面白いことが判った。入替を主導したのは、当寺の住職の満慶上人と公卿の小野篁であるが、驚くことに冥土界の閻魔王まで一枚噛んでいるのだ。

京都・矢田寺の地獄地蔵

京都の繁華街のど真ん中、寺町三条を少し上がったところに矢田寺という寺がある。（満慶上人が京都五条に別院を建て、地蔵菩薩を祀ったのが始まりとされる）。この寺には不思議な伝説がある。

まだこの寺が奈良の地にあった時のこと。住職の満慶上人はある人物の訪問を受けた。それは小野篁、昼は朝廷の役人、夜は地獄の役人として有名な人物である。篁は、閻魔王が菩薩戒を受けたいという依頼を受けて、懇意であった満慶上人を訪ねたのである。こうしてふたりは六道珍皇寺の井戸から地獄へ向かった。（この井戸は小野篁が現世と冥界を行き来する時に使っていたと言われており、今も残っている）

地獄で閻魔王に菩薩戒を与えた満慶上人は、篁と共に地獄を巡った。そして焦熱地獄の所まで来ると、一人の僧がいるのに気がついた。

地獄にいる僧とは一体どのような者なのか。

満慶上人は訝しんで僧に問うと、「私は世の多くの人が苦しむ身代わりとなっている」と答え、その本性である地蔵菩薩の姿となったという。矢田寺に戻った満慶上人は、この僧の姿を似せた像を造り、本尊として祀ったという。

矢田地蔵縁起

小野篁の紹介で閻魔王に菩薩戒を受け、地獄で地蔵菩薩に出会うところまでは同じである。

満慶は閻魔宮を辞して矢田寺に戻ると、直ちに仏師をして地獄におられた地蔵菩薩像を彫らせた。しかし幾度彫っても、その姿を再現することができず、神仏に祈願する毎日が空しく過ぎ去るばかりであった。だが、ある日突然4人の翁が現れ、三日三晩で、地獄で出会った地蔵菩薩そのままの姿を完成させたのである。そして驚嘆する満慶に「我らは仏法守護の神である」と告げると、五色の雲に乗って春日山へ飛び去った。この尊像が矢田寺の本尊となったと云う。

満慶（満米）も小野篁も平安初期の实在の人物で、4月の歴文では滋賀県の小野篁神社を詣でた。

まんべい
満米上人（平安初期、生没年不詳）

満慶は、閻魔王から手箱を土産として贈られた。不思議なことにこの手箱に入っている米は幾ら使っても減らず、常に満杯の状態であった。それで、満慶を満米上人と呼ぶようになった。

小野篁（802-852）

平安初期を代表する漢詩文家である。一族に、父の岑守は『凌雲集』の選者、孫には、小野小町、小野好古、小野道風などがいる。

閻魔王

閻魔王の本地仏は地蔵菩薩である。つまり、**閻魔様＝お地蔵様**？と言うことであろうか。

歴史文化クラブでは、来春1月に京都へ行き、矢田寺や六波羅珍皇寺を訪ねることにしている。

やあア口八椰子の葉形の夏の雲

坂東 久平

梅雨の日本を離れ常夏の地へ家族旅行。アロハオエの旋律が聞こえる。南の島で癒しのひととき。たまりませんなあー。南国の詩情あり。

矢田寺のアーチの如くあぢさるや

坂東 久平

6月例研。あぢさる寺の句。遠目、近目に七色の虹の様。下五の「や」止メは良くある技法。あまり常用しないように。

雨蛙鳴くだけないて渴きをり

八木 順一

ラブコールか雨乞いか。田園の蛙の鳴く声は郷愁を憶える。蛙さん余り鳴くと喉を痛めるよ。雨よ降れ降れ早く来い。

おふくろの味麩る初トマト

八木 順一

野性味のある食感に、ふと昔日の母の姿がよぎる。自作の出来は上々。里山の露地栽培は今年も不出来ですわ。おいらん

花魁のかんざしの揺れ梅 楳

古川 祐司

「楳」は若い細枝を言う。作者は梅林の番人。剪定に余念なし。

徒長枝を花魁の簪に見立てたのがお手柄。流石の一句。

はんげあめ

半夏雨に口拭はせよ味噌地蔵

古川 祐司

例研 矢田寺。雨よ雨よ、地蔵の口を綺麗にしてあげて！

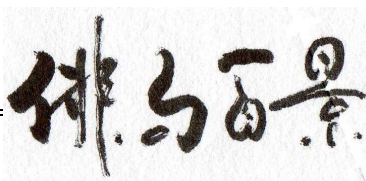
半夏生は仏語。夏安居の中間の頃の意。その頃に降る雨。

ひるじま

佐保の里猛暑に折れて午仕舞い

小山喜与男

この暑さ、たまりまへんナー。流石に里山の勇者もグブアップ。午後はお休み、帰りは何処かで冷たいビールと行きますか。



監修 川井秀夫

田草取り草のお髭の濃ゆきこと

鈴木 末一

水草のコナギが繁茂。丸で田面の無精髭ながら、除去に大わらわ。ユーモラスな比喻が面白い。諧謔味のある一句。

無農薬自慢の茄子の紫紺冴ゆ

鈴木 末一

今年の茄子は一段と美形。薬剤のお世話なしで実生からの生育に喝采。自然の姿が一番ですナ。秋茄子もこの調子で・・・

メダカ孵化確と数える老眼鏡

青木 幸子

一ミリのメダカ数える無用の日

青木 幸子

青木家の子メダカ誕生。同巧異句の二篇に思いが募る。ミクロの姿を肉眼では捉えにくい。老眼鏡で私も年ね。

はんげしよう

なす

半夏生草白きを浮かせ暮れ泥む

西谷 範子

半夏(夏至から二週間の頃)に花穂の下葉が半分白くなる。片白草とも。里山の群生地はご存知？。季節が来たら見て

チヨウダイ。

あばれ梅雨わが畑にきて慈雨となる

西谷 範子

梅雨本番。畑の番人は大歓迎。あまり大きな声では・・・

被災地のニュースに手放しでは失礼、失礼。

長形も短形も佳し茄子のかほ

川井 秀夫

例年になく今年は美男・美女が多い。自然栽培大成功。

このノウ・ハウは知る人ぞ知る。内緒、内緒。



夏に焦れて

谷川萬太郎



澄んだ夜更けに潮騒の音が囁きかける 静かな浜辺に煌めく星は夢追いかける
見上げればそこには星屑の街で見た 未来を夢見る流れ星が矢のように走り
夜明けが待ち遠しいと真夏の夜空には 幸せ預けた北斗七星が瞬き眩しく光る
海の上の月光が愛おしくつぶらな瞳で 貴方の長い後影を抱きしめたいと呟く
明日になればきっと昇る朝日が光輝き 待人恋し夏風に群飛ぶ海猫の涼しき翼が

眼放てば洋々と溢れる光のオブジェ 果てしない真青な海辺に夏の匂いが
幾重にも湧き出でる白波のうねり やがて砕け散る光の飛沫が白く光る
裸足で波打ち際を駆け抜け走る若者 潮風に肌を焼く旅人が焦れる夏舞台
手にした指先から滑る熱い白砂は 貴女の黒髪のように優しさに溢れてた
熱い夏の日を前にふと手に取った 可愛らしいその貝殻は貴方の証なの

ならやま茶論

「誰のせいでも…」

竹本 雅昭

刈払い機：旦那雨なんやから無理せんと休んだらどう。

翁：バーカ、予報では40%と言ってるんでそんなに降らへんて。

刈払い機：あんまり丁寧にせんでもよろしいんではありませんか。

翁：何や!!いちいちうるさいな。見てみえらい伸びた草が道へかぶさってきてるがな。

刈払い機：いいやそなんほっときなはれ、もうこれ位道幅も広がったら十分ですよんか。もう前方の刈払い機の音が全然聞こえてきませんで。

笹：私らもいけずで曲がってんのと違いまっせ。雨のせい、そう雨の重みで道側へ曲がってるだけで晴れたらすぐ立ち直りますよって。

翁：いいやそんなことない。ぐたぐた言わんとグルグル回転してたらえゝのや。ワシが気の済むようにさしてくれ。

～“ギュッ”異音と同時に刈払い機止まる。～

刈払い機：旦那えらいこっちゃなんか太い木に食い込んだよ。

翁：あら・・・草に隠れて見えなかったがな、よっしゃ木も腐り気味やからすぐはずしたる。丁度〇さんが来てくれたからちょっと待ち、この棒切れでゴーンとしたら、ほれ簡単やろ。

刈払い機：やれやれ手荒い人や。

翁：いいやワシだけのせいにすな、雨が一番悪いんや。

雨：敵みたいと言わんといてください。

私だって地球上で生活する以上仕方ない事で、その点を理解してくださいよ。

～終～





皆様方からのご応募をお待ちしています。

絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品

パッチワーク・切り絵など



▲オイルパステル「季節外れの玉ねぎ」

有元康人



▲墨彩画「蓮華」羽尻 嵩



▲水彩画「中之島公会堂」

八木順一



▲陶芸・焼き締め「猫」小島武雄

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

8月	4 (木) 25 (木)	11 (木)	18 (木)
9月	1 (木) 22 (木)	8 (木) 29 (木)	15 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後1時（サマータイム）

◆アクセス

① J R平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）

◆環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。

◆連絡先：八木 順一



里山 Gr

8/4 協働作業の日

協働作業（北側部分皆伐地区の下草刈り）
林野庁/里山林整備作業／薪割り

11

林野庁/里山林整備作業
イベント工作準備／薪割り

18

林野庁/里山林整備作業
イベント準備／薪割り

25

林野庁/里山林整備作業／薪割り



エコファーム Gr

8/4 協働作業の日

サツマイモの除草 つる返し 西瓜 南瓜収穫
葉ボタン ブロッコリー種まき

11

茄子 唐辛子 ピーマン パプリカ除草 追肥
桜島大根 YR くらま大根畝づくり

18

桜島大根種まき 各種野菜畑の畝づくり

25

西瓜 南瓜 畑撒収／各種野菜類種まきの準備

景観 Gr

8/4 協働作業の日

整備 彩の森草刈り
ビオ 池の整備
花 アガパンサス、シェードガーデン花摘み
パト 観察路周辺の笹刈り、ウルシの撤去

11

整備 第5地区草刈り・清掃
ビオ 西池生物調査
花 倭性コスモス種まき、花ナス移植・施肥
パト 倒木処理、枝払い

18

整備 BC 周辺・そば畑の草刈り／鋤込み
ビオ 池の整備
花 アイリス植え付け、山野草園草取り
パト イベント準備、観察路整備

25

整備 第5地区・佐保自然の森／草刈り／
鋤込み／蕎麦播種
ビオ 西池生物調査
花 葉ボタン種まき、山野草園柵作り
パト 安全パトロール

第五地区のヒマワリ





行事案内

GG プロジェクト案内 ②

「グリーンギフトプロジェクト」の今年度最後を飾る、ならやまでの屋外体験型イベント第3弾「ワクワク！ドキドキ！里山で遊ぼう！②」が、**8月20日（土）**開催されます。



午前中は7月の夏休みイベント第1弾でもご好評を頂いた飯盒炊爨とカレーライス作り、子供たちに飯盒によるご飯炊き、カレー作りの調理を体験してもらいます。初めて経験する子もたくさん参加、美味しいカレーが仕上がり、楽しく良い思い出となるよう、皆さまのご協力をお願いします。

みんなで作ったカレーを賞味し、昼からはならやまの里山林にも足を踏み入れてもらい、観察路途中では、会員のみなさまのアイデアを盛り込んだ自然遊びを随所で楽しんでもらいながら、素晴らしいならやまの自然を満喫してもらいます。

私達も子供達との対話を楽しみ、自然の不思議、素晴らしさ、面白さを一緒に楽しみましょう。

イベント参加の申し込みは、この会報がお手元に届くころの**7月30日（土）**から開始です。

私達の活動の場をご家族の皆さまにご披露する良い機会にもなりますので、会員の皆さまご自身のご家族にも奮ってご参加頂ければと思います。イベント詳細は、同封チラシをご参照ください。

参加定員は小学生の子供さん40名と保護者あわせて70名となっておりますが、収まり切れず、例年90名近くの参加となってしまいます。安全に注意しながら、子供たちに素晴らしい里山での体験をプレゼンしたいと思います。会員の皆さまには、イベントスタッフとして多数ご参加頂きたい、宜しくお願い致します。（辻本信一）

8月自然教室・案内



皆さんはこれまでに平城京の燕の埒（ねぐら）入りを見られたことがありますか？

「噂には聞いたことあるけど、まだ一度も見たことが無い」とおっしゃる方は是非一度一緒に下さい。日本野鳥の会の情報によると、去年は4万羽を超す燕が飛来しました。想像を絶する燕の大群がたそがれ時の夜空を乱舞する姿は圧巻です。

自然教室チームでは今年も8月23日（火）に下記要領にて平城京で自然観察会を実施します。



勿論、メインイベントは燕の埒入り、大自然が織りなすススペクタクルをご自身の目で堪能して頂きます。

またそれに先立ち、夕暮れを迎えるまでの2時間ほどを野草の宝庫、平城宮跡にてタデ科植物を中心とした植物観察を行います。

皆さま奮ってご参加ください。



1. 日時：8月23日（火）16時～19時過ぎ
2. 観察場所：平城宮跡、大極殿西側ヨシ原前
3. 16時～18時00分：タデ科植物観察
30分ほど休憩
18時30分～19時過ぎ：燕の埒入り観察
4. 集合場所：奈良文化財研究所、平城京跡資料館入口前
5. 持ち物：暑さ対策グッズ、双眼鏡、ルーペ、飲物など
6. 当日午後3時に雨が降っている場合、またはその後雨が予想される場合は中止致します。
当日の連絡先：辻本携帯

皆様のお越しをお待ちしております。

（辻本信一）

